

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

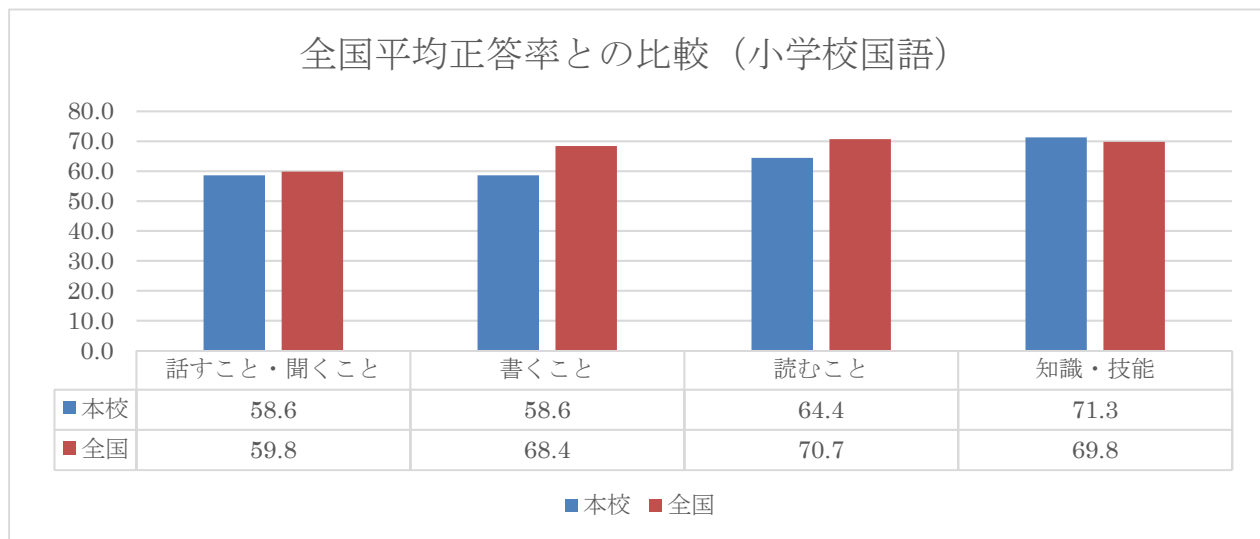
児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほぼすべての問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 1.5 ポイント上回りました。中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を 5.4 ポイントと大きく上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率(60.3%)を上げることです。正答率は、全国平均正答率(64.6%)を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

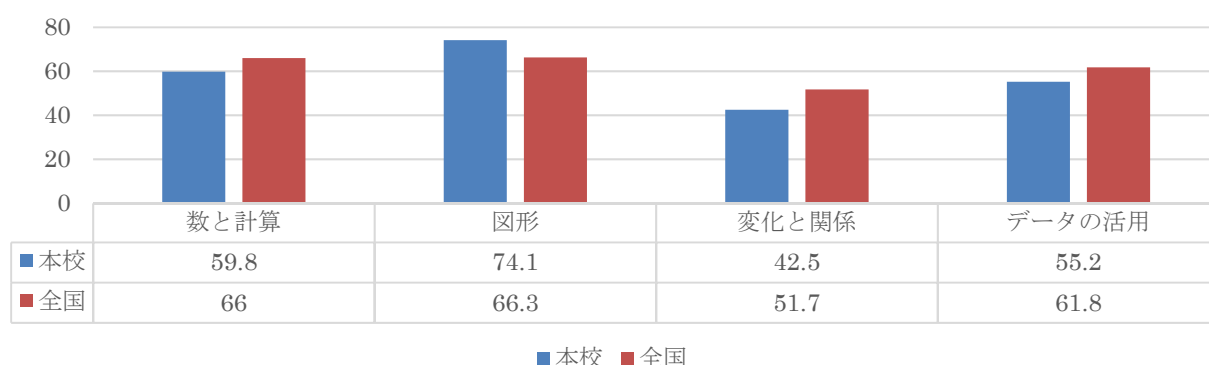
- 子どもが主体的に学ぶことができるように、授業の在り方を工夫すること(主体的・対話的で深い学び)で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。学校の図書室はもちろんですが、市立図書館や書店に定期的に行くことも、子供の読書習慣を育む上でお勧めです。

2 算数(数学)

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結果

「図形」の領域は、全国平均正答率を上回っていますが、その他の領域については、全国平均正答率を下回っています。無解答率については、全問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、選択式の問題の平均正答率（75.9％）が、全国の平均正答率（75.3％）を上回りました。しかし、記述式の問題の平均正答率（45.7％）が、全国平均正答率（51.0％）を下回っています。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの授業改善をさらに進めていく必要があると考えられます。

「変化と関係」の領域については、全国平均正答率より9ポイント下回っています。伴って変わる2つの数量の関係に着目したり、単位量あたりの大きさの意味や表し方を理解したりすることが必要です。また、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを導き出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりするなどして、式、絵や図、具体的な場面を往還（行きつ戻りつ）させながら児童の思考を深めるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、目的意識を明確にしたグループやペアで話し合う活動を位置付けるようにします。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やすことで、児童が自分の考えを数学的な表現で記述できるようになることを目指します。
- ティーム・ティーチングや少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭での課題の確認などを通して、日々の指導の中で個々の児童のつまづきを早期に発見し、個別指導や補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストなどをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きな子どもを育てるには、「習ったことが身近な生活の中でも使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とたくさんあります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	89.7%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	55.2%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	65.5%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	69.0%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	72.4%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	79.3%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	93.1%	79.5%

就寝時刻が定まっていないのが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

どの項目においても、肯定的な回答をした児童は、全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	6.9%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	6.9%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	41.4%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	27.6%	27.0%
「30分より少ない」	13.8%	13.0%
「全くしない」	3.4%	5.3%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても中学年から取り組み、お手本になる自学ノートを掲示するなどして定着しつつあります。これからも内容の充実を図ります。
- 始業前(8:05～8:15)の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果があらわれてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「まなざしカード」でも取り上げている項目です。「まなざし週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 佐賀県教育委員会から配付されている「家庭学習の手引き」などを参考にして、家庭学習の習慣化に向けての取組をよろしくお願いいたします。